

輸血検査研修会報告書  
生涯教育研修会報告書  
学発番号 第12 - 040号

平成24年11月9日報告  
報告者: 青山 絹子  
所属: 第二岡本総合病院  
連絡先: 0774-44-4511

主題: ゲルカラム凝集法(ID-System)による輸血検査の標準化  
講師: 小黑 博之氏(バイオ・ラッド ラボラトリーズ(株)診断薬事業部カスタマーサポート部)  
日時: 平成24年11月9日(金) 18:30 ~ 20:00  
場所: 京都保健衛生専門学校 視聴覚教室  
分類: 検体検査 20点  
全体参加人数: 23人  
日臨技会員: 20人  
京臨技会員: 21人  
京臨技以外の会員: 0人  
非会員: 2人

以下、講演内容など

輸血検査においてカラム法は多くの施設で導入され浸透しつつある検査法です。カラム法にはビーズカラム凝集法とゲルカラム凝集法がありますが、今回はゲルカラム凝集法(ID-System)による輸血検査について講演して頂きました。

ゲルカラム凝集法の開発の経緯、原理、検査時の注意点、反応の特性についてお話頂きました。従来の試験法と比較しゲルカラム凝集法のメリットとして、検査の準備や判定に要する時間と労力が少ない、試薬や検体の分注量が一定で再現性が高い、判定の個人差がなく客観性に優れるなど輸血の標準化、安全性の向上、業務の効率化を図ることが可能となります。しかしながら、機械にセットすれば結果がコンピューターに登録されるという自動化に慣れ、検査技師の技術レベルの低下も懸念されます。ゲルカラム凝集法で異常な反応が出ても対応できる知識を身に付け、検査の基本となる試験管法の技術を維持しておくべきであると思いました。